

序

教育実践の記録も第4集を発刊することになり、過去第1集からの応募原稿数も42篇を数えるにいたりましたことを非常に喜ばしく存じます。

教育実践の記録をまとめるということは、まとめる者自身にとつて、又それを読まれる方々にとつて非常に有意義なことは申すまでもありませんが、現場にたくさんの研究的活動を展開している人がおり、数々の貴重な資料を持つている人が多いわりに、これらをまとめて発表する人はまだまだ少ないように思われます。これはたくさんある資料をどのような考え方に立つて、どのような方法を用いてまとめるかというようなことに一種の煩わしさを感じ、ついまとめることを断念してしまうのではないかと思います。

しかし、自己の実際教育活動を反省する材料を得るためにも、いろいろな煩わしさを乗り越えて、自己の考え方や活動の様子を一文にまとめてみることは是非必要なことであり、又、一度この煩わしさを乗り越えることにより次第に論理的な考え方、科学的な資料処理方法、まとめる方法等に通暁する道が開かれるものと思います。そしてこのような場面にこそ教師の着実な前進がみられるものと考えます。

このような意味で、今回応募された7校11人の諸先生には校務多忙にもかかわらず、よく煩わしさを乗り越えて研究をまとめて下さったことに対し、深く敬意を表すと共に、他の諸先生方にも是非御寄稿下さるようお願い申し上げます。

なお今回の講評は、西中大滝徳海先生（国語科）北郷小荻原八十吉先生（数学科）毛野中刑部富造先生（社会科）東小田米開七蔵先生（理科）教育研究所増田英一先生（教科以外のもの）そして南木宏（教科以外のもの）の6名が担当いたしました。記録を寄せられた先生方ならびに講評を担当された先生方に御礼申し上げ序といたします。

昭和35年3月

足利市教育研究所長 南 木 宏